

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22330215

研究課題名(和文) 辺境における空間的・社会的移動と教育 奄美諸島の経験を基軸とした比較的研究

研究課題名(英文) The Spatial and Social Mobility, and the Role of School for the People Living in the "Periphery"; Comparative Study Focusing on the Experience of Amami Islands

研究代表者

駒込 武 (Komagome, Takeshi)

京都大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：80221977

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,700,000円、(間接経費) 2,010,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、近代日本において「辺境」とされた地域において空間的移動と社会的移動の可能性がどのように開かれていたのか、その中で学校教育がどのような役割を果たしたのかを解明した。具体的には、奄美諸島の経験を基軸としながら、かつて日本の「植民地」とされた台湾・朝鮮や、「内国植民地」と称された琉球諸島・北海道を含めて、これらの地域に生きる人びとが高学歴の取得を通じて脱「辺境」を志向しながらも、その試みが挫折したプロセスを分析した。また、いわば「法制化された不自由」が存続した時代に構築された資本金格差が、「法制化された不自由」撤廃後の不平等を存続させるための重要な因子としての役割を果たしたことを指摘した。

研究成果の概要(英文)：This research analyzes the possibility of spatial and social mobility, and the role of school for the people living in the "periphery" of modern Japan. Focusing on Amami Islands, along with Taiwan and Korea that were regarded as formal colony, and also with Ryukyu Islands and Hokkaido that were often seen as internal colony, we have made it clear that those peoples living in these areas sought for liberating themselves from peripheral status through acquiring high academic qualification in vain. We have also pointed out that capital difference constructed through legal differentiation took an important role for maintaining inequality after the abolishment of legal differentiation.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：奄美 沖縄 台湾 朝鮮 アイヌ 辺境 植民地 教育

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、戦前期日本の植民地教育に関する総合的な研究を『植民地帝国日本の文化統合』(岩波書店、1996年)としてまとめ、その後、科学研究費(基盤研究(C)、2003年度~2005年度、研究代表者駒込武)を受けながら、植民地期台湾のキリスト教系学校に関する研究を朝鮮や「内地」のキリスト教系学校との比較を含めて進めてきた。その過程において、1930年代台湾におけるキリスト教系学校排撃運動が、奄美大島におけるキリスト教系学校排撃運動と密接に関連していることを見出した。

他方、科学研究費(基盤研究(B)、2006年度~2009年度、研究代表者駒込武)による共同研究の一環として「沖縄人」意識の成立過程を研究するプロセスで奄美諸島を訪問し、鹿児島「植民地」としか呼びよれない状況が歴史的にも、現在の状況において存在していること、さらに沖縄との関係では奄美諸島が相対的に「辺境」としての位置を占めるとともに、奄美諸島の内部でも奄美大島と徳之島、さらにその西方に位置する鳥島(硫黄島)などの間に重層的な「中心」「辺境」構造が存在することを認識した。かつて歴史学者鹿野正直は、奄美在住の文学者島尾敏雄の問題提起を引受ける形で『「鳥島」は入っているか』(岩波書店、1988年)という問題提起をしたが、単に奄美諸島を「内国植民地」の範疇に付け加えて「日本史」の記述に組み入れるのではなく、「植民地(主義)とは何か」という問いそのものを再考し、深化させる必要がある、本研究計画は、この共同研究において形成した共通認識とネットワークを基盤としながら、奄美をめぐる問題を軸として従来の研究成果を再検証・再編しようとする意味を備えている。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、近代日本において「辺境」とされた地域において空間的移動と社会的移動の可能性がどのように開かれて/閉ざされていたのか、その中で学校教育がどのように地域住民の夢を担い、あるいはそれを圧殺する役割を果たしたのかという問題を歴史的に解明することである。具体的には、奄美諸島の経験を基軸としながら、かつて日本の「植民地」とされた台湾・朝鮮や、「内国植民地」と称される琉球諸島・北海道との関係・比較を含めて、これらの地域に生きる人びとが移民・出稼ぎや高学歴の取得を通じて脱「辺境」を志向しながらも、しばしばその試みが失敗に終わり、失意の中で地域的/民族的アイデンティティを見出すにいたるプロセスを検討する。こうした作業を通じて「植民地(主義)とは何か?」という問いをステレオタイプから解き放ち、今日の世界の

根底にかかわる問いとして浮かび上がらせることを目指す。

## 3. 研究の方法

本研究では、連携研究者・研究協力者を研究計画全体にかかわる「コア・グループ」と各地域単位に構成される「サブ・グループ」とに分け、「コア・グループ」のみによる会合を京都で開催する一方で、「コア・グループ」のメンバー全員が名瀬や那覇や台北を訪れて「サブ・グループ」のメンバーと討議する機会を設けた。

このような研究体制を構築するのは、地域を越えた比較研究が実はそれほど容易ではないという認識に基づいている。フィールドを異にする研究者が一同に集まるシンポジウムは頻繁に開催されているが、「私のフィールドとする地域では です」という報告を数多く積み重ねても、比較研究そのものは必ずしも深まらない。限られた討論時間の中で表層的な類似の指摘、あるいは地域ごとに「固有」の事情があるという自明な事実を確認するに止まりがちである。また、特定のフィールドを持たない個人が、日本の「辺境」とされた地域を網羅的にカバーする研究をしようとした場合には、「東京」から鳥瞰した視点で二次的な資料を用いて行う傾向が強くなる。本研究の体制は、こうした事態に対する自覚と反省に基づく模索の結果として定着してきたものである。

「コア・グループ」を構成するのは、台湾史を専攻する申請者(研究代表者)のほか、沖縄史専攻の富山一郎(同志社大学教授)、沖縄史研究を基盤としながら近年奄美・沖縄関係史について新たな研究領域を開拓しつつある鳥山淳(沖縄国際大学准教授)、アイヌ史専攻の小川正人(北海道立アイヌ民族文化研究センター研究職員)、朝鮮史専攻の板垣竜太(同志社大学准教授)の5名である。

本研究の「コア・グループ」による会議では、それぞれ異なるフィールド、研究歴、知的なネットワークを背景とする研究者が、共通の資料を読みながら、少人数でじっくりと時間をかけて議論することにより、それぞれの地域を越えて通底する経験のあり方をあぶり出す作業を重視する。特に今回の研究計画では、資料集編纂に向けて掲載する資料の確定、資料の解説執筆とその検討という作業を基軸としながら、研究会を開催した。

京都以外の地での会議は、「サブ・グループ」のメンバーを含めて開催するために参加者が増えるが、それでも10名程度とするとともに、やはり共通の資料を媒介としながら、じっくりと時間をかけて討議することを重視する。また、現地で資料調査をするばかりでなく、それぞれの地域の「いま」が抱える問題を凝縮した場所を訪れるなどフィールド・ワーク的な作業を行った。研究をめぐる



Itagaki, Ryuta, "The Anatomy of Korea-phobia in Japan", Rethinking race/racism from Asian experiences (MAI International Seminar), Organized by Monash Asia Institute, Monash University, 2013, held at Monash University (Melbourne, Australia)

〔図書〕(計5件)

富山一郎・森宣雄編、青弓社、現代沖縄の歴史経験、2010、417

島山淳、勁草書房、沖縄ノ基地社会の起源と相克 1945 - 1956、2013、275

島山淳・森宣雄編、不二出版、「島ぐるみ闘争」はどう準備されたか、2013、274

富山一郎、インパクト出版会、流着の思想 2014、375

駒込武、岩波書店、世界史のなかの台湾植民地支配、2014(印刷中) 864

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

駒込 武 (KOMAGOME, Takeshi)  
京都大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号：80221977

### (2) 研究分担者

( )  
研究者番号：

### (3) 連携研究者

富山 一郎 (TOMIYAMA, Ichiro)  
同志社大学・グローバルスタディーズ研究科・教授  
研究者番号：50192662

板垣 竜太 (ITAGAKI Ryuta)  
同志社大学・社会学部・准教授  
研究者番号：60361549

島山 敦 (TORIYAMA, Atsushi)  
沖縄国際大学・総合文化学部・准教授  
研究者番号：60444907